

図書だより



種子島中央高校図書館

Spark!! 心煌めく1冊と

今年の文化祭テーマは「Spark!!～煌めく瞬間を君と～」。みんなで作り上げるその一瞬一瞬は、きっと心に残る“煌めき”になるはず。実は、本の中にもそんな“Spark”がたくさん詰まっています。登場人物のひと言にハツとして、物語の展開にドキドキしたり、自分の考えが変わるような出会いがあったり…。心煌めく一冊が図書館でみなさんを待っています。文化祭の準備の合間に、ちょっとだけ本の世界をのぞいてみませんか？

「夜のピクニック」

恩田 陸

高校の「歩行祭」で一晩中歩き続ける生徒達。主人公はある秘密を抱えながら、友人達との時間を通して自分と向き合っていく。非日常の行事の中で、青春の煌めきが描かれています。



「地雷グリコ」

青崎 有吾

高校生の主人公が頭脳ゲームで勝利を目指す短編集。表題作「地雷グリコ」では、文化祭での屋上の使用権をかけて、じゃんけんで進む「グリコ」に地雷の要素を加えたゲームに挑みます。



「文化祭オクロック」

竹内 真

文化祭の最中、DJ ネガボジにより突如始まった謎の校内ラジオ。DJの発言に腹を立てた主人公達はその正体を探り始める。文化祭の活気の中、奔走する高校生達の青春ミステリです。



「氷菓」

米澤 穂信

主人公は省エネ主義の高校生。入部した古典部で好奇心旺盛な少女と出会い、様々な謎に巻き込まれていきます。古典部文集「氷菓」に込められた謎とは…。



「ぼくはイエローで、ホワイトで、ちょっとブルー」

ブレイデイみかこ

イギリスの中学校に通う息子と母親のリアルな日常を描いたノンフィクション。多様性、差別、友情など世界の「今」を知るきっかけになるはず。



「このオムライスに、付加価値をつけてください」

柿内 尚文

「オムライスに、付加価値ってどういうこと？」モノやサービスに“意味”や“価値”をどう加えるかを教えてください。「考えるって楽しい！」と思える瞬間がスパークする1冊です。



2025・第79回 読書週間
10/27～11/9
こころとあたまの、
深呼吸。



【読書週間の歴史】

終戦の2年後の1947年(昭和22年)、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社、取次会社、書店と公共図書館などが力を合わせ、第1回「読書週間」が開催されました。

それから約80年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。(公益社団法人読書推進運動協議会より一部抜粋)

全国読書週間は今月末から始まりますが、本校では来月、11月10日(月)～21日(金)に校内読書週間を設けています。

読書の秋到来です！いろいろなジャンルの本に挑戦してみましょう。



秒速5センチメートル

10月10日に全国ロードショーとなった実写版「秒速5センチメートル」。元々は3つの短編からなる連作形式のアニメーションで、第2話「コスモナウト」では、ここ種子島が舞台になっています。



本校図書館には、新海誠著「小説・秒速5センチメートル」、加納新太著の、もう一つの目線で描かれた「秒速5センチメートル one more side」、清家雪子による漫画版「秒速5センチメートル」があります。

「小説・秒速5センチメートル」

新海 誠

登場人物たちの心の揺れを、繊細な筆致で綴った小説。遠く離れていく想い、届かない言葉、そして時の流れの中で変わっていく自分。静かで切ない物語。

この本で、“あの桜”に会いに行こう。



「秒速5センチメートル one more side」

加納 新太

アニメ映画では語られなかった“もうひとつの視点”から描かれる物語。登場人物それぞれの心の奥にある葛藤や願いが、丁寧に紡がれています。作品の世界をさらに広げたい人に、ぜひ手に取ってほしい一冊。

【お知らせ】

11月10日(月)～21日(金)の2週間は校内読書週間です。

18日(火)の特設LHRにて、1・2年生は「ミニビブリオバトル」を行いますのでたくさん本を読んで準備しておいてくださいね！

